

## 耕作放棄地の解消のため“さとうきび”を栽培し 特産品を開発。消費者との交流で販路拡大を。

### 青葉の会有限責任事業組合

【団体概要】 ●所在地:玉名郡玉東町原倉573-1 ●電話:0968-85-6013 ●代表者:西村 裕幸 ●会員数:5名

#### 活動の概要

平成20年、さとうきびの素晴らしさを子供たちや町の住民に知ってもらうとともに、さとうきびを活用して玉東町の特産品を開発し町の活性化に繋げようと「青葉の会有限責任事業組合」を設立。耕作放棄地解消を目的に町内でさとうきび部会(13名)をつくり、絞り汁は部会員が加工し家庭で使用。絞りかすは土壌改良剤として活用。黒糖蜜、黒砂糖、その加工品を開発して町の特産品づくりに繋げている。



さとうきびで新たな特産品づくりを目指す



物販催事などでも積極的にPR



黒砂糖などの加工品

#### 事業の成果

さとうきび部会ができたことで製品開発はもちろん、さとうきびの有効利用が広がった。また新製品の開発も進んだ。

- 糖みつ味、みかん味、晩白味の3種ハードゼリーが完成し、新たな商品として販売。
- 試食販売会等、里モンプロジェクトで支援してもらった消費者交流がファン拡大につながった
- 農産物での加工品づくりの機運が町内に高まった

#### 活動資金・行政の活用

活動資金は加工品の販売利益なので、売上を上げなければ思うような活動ができないのが現状。役場、JA、県事務所からのサポートがあり助かっているが、ますますの情報提供をお願いしたい。

#### 広報(PR)の仕方

毎年11月中旬にさとうきび収穫祭を実施し、収穫祭のチラシポスターを商店、直売所などでPR。町の物販イベントへの参加、ネット販売、新玉名駅内「たまうら」での販売でもPR。

#### ネットワークづくり

「さとうきび搾り体験」や「くまもとふるさと食の名人による郷土料理実演講習会」などのイベントを通じて協力していただける方々との接点を設けている。

#### 人材(後継者)育成・組織運営

地産地消活動、都市と農村の交流活動、食育または食文化継承活動の3つを組織運営のテーマにしている。さまざまな取り組みを通じて組合員の親睦と外部との交流を深めている。

#### 課題と反省点

- 課題はやはり販売先の確保。
- セールス活動を行う人材、ツール等が必要。
- 何が売れるかという商品開発へ向けての情報の収集

#### 今後の展望(展開)

当初、取り組みのテーマであった「ハニーローザ(すもも)」の収穫が思うように行かず他の柑橘と糖蜜を活用した経緯があり、栽培に手間がかからず、やせた畑でもすくすく育つ「さとうきび」をさらに活用し、みかん鹿園等の耕作放棄地の解消を図りたい。

#### 他団体へのアドバイス

農業主体ですが、産物を活かす手段として加工をやり、自分達で「出来ること」としてイベントも行ってはいますが、手伝って頂く人に、タダ働きはNGだと思います。全くゼロ円ボランティアでは何事も続かないと思います。

## 地域活性化のための おしゃれマルシェプロジェクト。

### なごみマルシェの会

【団体概要】 ●所在地:和水町江田4250 ●電話:090-7246-2700 ●代表者:椎名 岳雄 ●会員数:15名

#### 活動の概要

肥後民家村は古民家を移築したテーマパークで、多くの作家が工房を構え、木工や陶器などの作成体験ができ日本の文化に触れることができる。一方、和水町には、無農薬野菜などのこだわりの農家が美味しい農産物を生産している。この農家と町を訪れる人々をつなぐためのイベントとして肥後民家村を会場としたマルシェを開催することとなった



県内外からの多くの参加者で賑わったマルシェ



出展者メンバー

#### 事業の成果

オシャレなマルシェを開催することにより、普段、肥後民家村や和水町へ来る機会の無い方々へ、和水町の見えただけきっかけとなった。

- 農家の方と外部の方をつなぐきっかけができた。
- 次回開催に向けて賛同者も増えた。
- 初めてのマルシェで約1,000人がご来場した。

#### 活動資金・行政の活用

里モンプロジェクトの助成金及び自己資金を使い、主に宣伝活動に活用した。町の備品である、椅子、テーブル、案内看板などを無償で利用でき、経費節減に行政の関わりは不可欠。

#### 広報(PR)の仕方

タウン情報誌、熊日新聞、テレビの他に、集客力のある肥後民家村café&arts KINONさんや福岡・熊本飲食店でも広く宣伝。SNSでの発信やイベント用ホームページも立ち上げて宣伝した。

#### ネットワークづくり

地域の飲食店の方々も出店と企画づくりの段階から協力。クリスマスのマルシェというコンセプトを作り、フランスのNOELをイメージしたマルシェづくりを考え実行した。

#### 人材(後継者)育成・組織運営

今後は、地元の方々自主的にできることが良いが、やはり企画から運営といったことで、時間と労力がかかる。できるだけ地元の人が関わり毎年開催できるよう努力したい。

#### 課題と反省点

- 人件費までは助成金では賄えない。専従者を雇える費用が欲しい。
- 地域内での広報活動が足りず、後で知った方も少なくなかった。

#### 今後の展望(展開)

少なくとも年に1度の開催を検討し、機会があれば小規模ながらも回数を増やしていきたい。また、町内農家の方々により多く出店をしていただき、交流の場を増やしていきたい。

#### 他団体へのアドバイス

明確な開催趣旨やコンセプトを作り、それらをSNSなどで情報発信力することが一番大切だと感じる。